



1921-2021

⑨ 越美南線開通

明治時代の終わりから大正にかけ、岐阜県内の鉄道網は着実に整備されていきました。中央線が明治41(1908)年に坂下まで建設され、高山本線も大正10(1921)年に太田までが開通します。

太田から長良川沿いに福井へ向かう「越美線」は、大正8年に鉄道省による建設が決定し、大正11年4月から美濃太田側から工事が始まりました。翌12年には美濃町まで開通し、10月5日に加茂野駅(現・富加駅)が開業しました。北濃駅まで開通したのは、高山本線と同じ昭和9年のことです。しかし、山間部の難工事と戦争の影響で、北濃から先の工事は一時中断となり、のちにこの美濃太田・北濃間は「越美南線」と称されるようになりました。福井側からの工事も同様に昭和14年に中断され、最終的に越美線の全通は達成されませんでした。

当時の鉄道は貨物輸送として大きな役割を果たしており、加茂野駅前にも運送会社が3店開業して地域物流の拠点になりました。昭和41年に名古屋―北濃間を結ぶ急行列車「おくみの」が走行するなど観光面でも最盛期を迎えました。しかしその後は貨物輸送や乗客の減少が進み、昭和59年に国鉄の分割民営化により廃止が決定。沿線地域では自治体と民間が共同で経営する第3セクター方式で継続を図ることとなり、昭和61年「長良川鉄道株式会社」が設立されました。



▲越美南線の廃止・長良川鉄道の営業を開始(昭和61年)

文化の森企画展「鉄道のまち」展
(3月6日まで)を開催中